

少時の追憶 私の社会主義的思想——芽生ひ時代と思出の人々 17

平民社時代の社会文芸 22

共働事業の思ひ出 33

巢鴨刑務所の思ひ出 37

二度の検束 40

大逆事件のことなど…… 44

売文社技手にはなれなかつた 48

無限の幸福境 52

遺言の思ひ出 54

『ダイナミック』の思ひ出 59

獄中の私を励ましてくれた母 64

福田のお婆様 66

内村さんの思ひ出 75

私の受けた印象 81

蘆花廿周年忌 88

野の義人田中正造 90

筆の戦士 逝ける木下尚江 92

木下尚江 95

幸徳秋水の母 100

円 107

唯一の宝物 108

『平民新聞』の頃 110

野沢重吉君を想ふ 112

著者小伝 115

機会を喪つて残念 119

可愛がつて貰つた黒岩さん

故逸見夫人の思ひ出 124

千鶴さんを讃へる 127

自殺は創造なり 130

有島武郎君の死 136

死 141

春月とその死 144

魂の姿 151

新居格君を想ふ 153

II

哲人カーペンター 159

カーペンター翁の近状 195

カーペンターを想ふ 200

カ翁の無政府主義 204

百年祭 207

社会革命史上に於けるルククリユの業績 209

バクニンを想ふ 233

ロマン・ロオランとクロボトキン 238

チエルケソフを憶ふ 243

マラテスタ逝く 250

ゴオルドスミス女史の死 254

ピエロを想う 259

20世紀のデイオゲネス アン・リネエル 262

亡国民の偉業 271

ピルスツスキイの想ひ出 279

支那の知友達 285

III

編集雑記

平民日記 299 平民社より 301  
編輯局より 306 回顧一年 308 平民社より 303  
編輯局より(五日) 314 平民社より 305  
編輯局よ

り(九日)	315	編輯局より(十日)	316	編輯局より(十一日)	317
編輯三月	318	編輯局より	322	編輯局より	323
編集余録	328	千歳村信	330	回顧五年	394
					325

IV

説小 脱殻 405

説小 恋か魔か 412

ダダイスト清子 420

詩歌抄

獄中随吟 432 去月廿一日谷中村を訪ふて読める歌 433 春の歌 434

春郊外 435 習作・戯作 436 短歌三首 439 死別 439 谷の水

都 440 心澄みて 440 君は其人なりや 441 秋の夕 442 随吟 夜の

442 楽しき田園生活 444 コスモス時代 445

序 447

木下君へ呈す 449

編輯事情 453

ドムにて——ノートより 456

書評一束

『新政経』(佐藤虎次郎著) 460 『基督教本義』(海老名弾正氏著) 460

軍国の社会政策(『太陽』後藤新平氏) 461 『時代宗教』(境野黄洋氏著) 460

464 『無我の愛』北豊島郡果鴨村無我苑 464 『新仏教』小石川町六鶏

声堂 465 『良人の自白』篇統を読む 465 説小『労働』を読まず 467

渋谷定輔君の『野良に叫ぶ』 470 集歌『鋪道の歌』西村陽吉氏著 474 471

『虫・鳥と生活する』中西悟堂氏著 472 『罰当りは生きてゐる』 474

『農に生きる』 475 『近代学校』 475 『蘆花伝』を読む 476 津田左右

吉著『日本上代史の研究』 478 『魔の宴』 483

解題 486 編集ノート 496

## 凡例

- 一 本著作集は石川三四郎の著述、雑記、書簡などを可能な限り収集し、以下の四つの視点から選択、編集したものである。①発表時に一定の影響を及ぼした著作。②著者の思想形成上、節と目される著作。③現在からみてなお獨創性をもつ著作。④著者の人間性、思想性の顕著に示されている著作。③現在に限り初出發表紙誌に戻し、一に記した視点から改めて選択、編集した。
- 二 『自叙伝』、パンフレット類を除き、単行本は収録しなかった。發表後に単行本に収められた諸著作は可能な限り初出發表紙誌に戻し、一に記した視点から改めて選択、編集した。
- 三 底稿は自筆原稿の残っている著作はそれにより、その他は原則として初出發表の新聞、雑誌、単行本などとし、校訂の際、その後の刊本による訂正、あるいは著者自身の書入れを参考にした。
- 四 収録文は底稿に忠実であることを原則としたが、以下の場合に限り訂正を加えた。
  - 1 漢字は新字体を用い、変体かなは平かなに改めた。
  - 2 句読点、改行、字下りなどの扱いは読解に著しく不便な場合、現行の慣用に従った。
  - 3 ルビは特殊な読み方、難解な語句に限り付した。
  - 4 明らかな誤字、誤記は改めたが、正誤を判断しかねる場合には「ママ」と傍記した。
  - 5 書名、新聞名、雑誌名には『』を、その他の著作名および引用文、会話などには「」を付した。
  - 6 伏字についてはその箇所を明示し、復元しようものは「」に囲んで入れた。
  - 7 編者による注記はすべて「」に囲んで入れた。
- 五 収録文の發表時の署名、發表紙誌名、發表年月日、その後収録された単行本名などは可能な限り巻末の解題にまとめて示した。